

〈研究ノート〉 ロシア十月革命の記憶と現代イメージについて

Research Note: On memory and modern view of Russian October Revolution

クフシーノワ カーチャ
KUVSHINOVA, Ekaterina

第1章

1-1 はじめに

2017年11月7日¹にロシアは、世界初の社会主義国家の誕生につながった「十月革命」から、ちょうど100周年を迎えた。ソ連の政治体制は暴力的な政治体制だったと、しばしばみなされている。ロシア革命の本来の目的は人間解放であったが、結果として人間抑圧の革命になったという世論があるのではないだろうか。しかしながら、「100年前と後で、革命の世界的なイメージは同じか、あるいは違っているか」という問題を立てうるかもしれない。本研究では、何よりもこの問題を分析したいと思う。

1-2 研究の背景・目的

本研究の目的は次の問題である。まず、十月革命の性格をもっと良く理解できるように革命の一番重要な時事を振り返りたいと思う。そして、革命の目的とその基盤を知るためにレーニンの革命理論を考察し、レーニン主義とマルクス主義の関係を明確にする。さらに、十月革命は世界にどのような影響を与えたという質問を立てる。最後に、ロシアだけではなく、世界でも行われた十月革命の100周年を記念する展示を分析しながら、十月革命の現代の表象を分析する。この研究の究極的な目的は、十月革命の現代のイメージを明らかにすることである。

第2章

2-1 十月革命の経緯

ロシア革命が起きた20世紀初めは資本主義が世界を支配する時代だった。皇帝による専制体制が敷かれていたロシアでは、「平和とパン」を求める国民の要求が高まり、1917年2月、首都ペトログラード（現サンクトペテルブルク）で労働者のデモが起き、帝政が崩壊し、臨時政府が樹立された（二月革命）。1917年冬、初めてパンを求める長い行列ができた。その後、政治的要求も叫ばれるようになった（『戦争やめろ！』、『専制やめろ！』）。このようにして、2月にはロシアの君主制が崩壊した。3月2日、ニコライ2世は退位宣言書に署名を行い、弟ミハイル・アレクサンドロヴィチに皇位をゆずるが、3月5日にミハイル・アレクサンドロヴィチも退位宣言書に署名した。これはロシアの君主制の終わりになった。

臨時政府は戦争を継続し、即時講和・食糧・土地を求める農民の運動の高まりの中で、レーニンによるボリシェビキ（ロシア社会民主労働党内の革命派）の指導のもと、労働者・兵士が10月7日、武装蜂起して臨時政府を打倒した。労働者・兵士・農民ソビエトが権力を握った。その後ソ連政権が70年続いた。このようにソ連は、「十月革命」によって、人類の歴史ではじめて資本主義から離脱して社会主義への道に踏み出したと言われる。

¹ ユリウス暦の1917年10月25日（現在のグレゴリオ暦の11月7日）

2-2 レーニン主義

レーニン主義の基礎とは、大きなテーマであるが、ここでは、レーニンの「マルクス主義の三つの源泉と三つの構成部分」(1909年)とクーラクの「レーニンはマルクス主義者であるか」(2002年)という文章に基づいていくつかの基本的な出発点をあたえる。

まず、レーニンはマルクス主義者であるから、彼の世界観の基礎は、マルクス主義である。というのは、レーニン主義は、一般的にプロレタリア革命の理論と戦術であり、とくにプロレタリアートの独裁の理論と戦術である。しかし、クーラクによると、レーニン主義の解説は、マルクス主義の基礎をのべることから始めてはならない。レーニン主義とはマルクス主義をロシアの状態の特別な条件に適用したものであると言えるが、レーニンの目的はロシア的なものにすぎない革命理論を国際的發展全体に根ざした国際的現象として發展させることにあった。第二インターナショナルの参加者が骨ぬきにしたマルクス主義の革命的な内容を、レーニンが実際に復活させた。その上、通常、レーニン主義は戦闘的な性格と革命的な性格が指摘される。なぜかという、レーニン主義はプロレタリア革命のなかから生まれてきたので、この革命の特徴をそなえているからだ。グリーニナの『ロシア革命の原因について』(2010年)は、レーニン主義がマルクス主義を復活させただけでなく、さらに一步前進して、資本主義とプロレタリアートの階級闘争との新しい条件のもとで、マルクス主義をいっそう發展させたと述べている。

基本的にはレーニン主義は、帝国主義とプロレタリア革命の時代のマルクス主義であるだけでなく、プロレタリア革命の理論と戦術である。

第3章

3-1 革命の責任の問題

十月革命は流血の事件であった。しかし、責任は誰にあるのかというのはもっともな質問ではないだろうか。革命の悲劇的な發展に関して様々な論争がある。

まず、トロツキーの『試練の時期』(1917年)では、「血が流された。そして今、ブルジョアジーの『指導的』新聞とブルジョアジーに奉仕する新聞は、事件に対する、すなわち大衆の窮乏と消耗と不満と憤激に対する全責任をわれわれに負わせようとしている」²という意見を述べた。すなわち、ブルジョアジーとボリシェヴィキは責任を互いに転嫁し合うことになった。ボリシェヴィキはピラトの政策³を行なうことの責めをブルジョアジーに着せ、無能な統治の責めを皇帝にも着せるという論議を主張した。これに対して、ボリシェヴィキは暴力的な方法を責められた。

しかし、ロシア現代史の観点から、「十月革命は誰のせい」かという質問には正しい答えがない。やはり革命自体はボリシェヴィキ党の単独責任ではないが、ペトログラード・ソヴェト内の公式機関である軍事革命委員会の名を用いて革命を準備した(武器の調達)という責任がある。さらに、帝国の権力は財政の危機と庶民の極端な窮乏の責任を負う。つまり、十月革命は不可避な事変であった。

3-2 世界に与えた影響

まず、十月革命は、プロレタリアートは革命運動の原動力であるという証明になり、労働者階級は専制に反対し、ブルジョアジーの執権《ディクタトゥラ》に反対する人民の闘争の指導者として行動した。ソ連邦における社会主義建設の理論は、国際プロレタリアートにとって大きな意義をもっている。というのは、ソ連は共産主義を世界中に輸出し始めた。中国に続き、北朝鮮、ベトナム、カンボジアなどへと輸出され、ソ連と同じことがこれらの国で起こった。さらに、中国の民族意識を共産主義で煽動し、運動の高まりに大き

² Trotsky L.D. (1917). Dni ispytaniya. [試練の時期]. 訳 志田昇, <https://www.marxists.org/nihon/trotsky/1910-3/siren.htm>

³ 「ピラトの政策」とは道徳的責任を回避する政策のことを言う。(ポンティウス・ピラトはローマの政治家でユダヤ地方の代官。ユダヤ人の抵抗運動を弾圧し、キリスト処刑の責任者。)

な役割を果たした。

ソビエト政権は、1917年10月8日に「平和に関する布告」をした。交戦諸国民に無併合・無賠償の講和を呼びかけるとともに、民族自決の原理の必要性を述べた。植民地支配を行っている諸国（ヨーロッパや北米）に対して、「布告」は大きな進歩であった。

その上、ソビエト政権は「ロシア諸民族の権利宣言」を発表し、帝政ロシアの支配のもとにあったすべての民族に、ロシアから分離し独立国家を建設する自由を認めた。ソビエト政権はそれを現実に実行し、フィンランドとポーランド、バルト3国—エストニア、ラトビア、リトアニアが独立国として分離した。

このように、すべての民族の独立と民族自決権を承認した。このことが、民族解放運動の高まり、第2次世界大戦後の植民地体制の崩壊に影響を与えた。

また、ソビエト政権は1918年1月、「勤勞し搾取されている人民の権利宣言」を発表した。この宣言は「社会国家の理念が一般的に承認され、権利宣言が各種の社会権を宣言・保障する原則に」なり、ドイツのワイマール憲法（1919年）や国際労働機関（International Labour Organization）創設などに間接的に影響を与えたとされている⁴。

3-3 革命の記憶について

11月7日は「十月革命記念日」として祝われていたが、ソ連崩壊後の2005年から国民の祝祭日としては廃止した。しかし、いくつかの歴史研究会や政治団体は革命のイデオロギーを積極的な観点から評価しようとしている。また、ロシアには革命について見解を持つ2つのグループがある。共産主義者は1917年の革命を「公正な世界の夜明け」⁵だと考えているが、ロシア正教会は革命が暴動だと考えている。この出来事については、統一した見解がない。

「1917年のロシア革命：権力、社会、文化」によるとロシア史研究者のユーリー・ペトロフは、1917年の革命で得た教訓について次のように語った。「...我々は革命についてすべてを知っており、そこからあらゆる教訓を得たように思われる。しかし恐らく主な教訓は、再び革命を起ささないことにある。革命とはマルクス主義者たちが述べたような『解放された労働者の祝い』であっただけでなく、ロシアでは国の発展を後退させた『血浴（大量虐殺）』だった。...だが主な教訓は恐らく、人間の命をなおざりにした価値観で未来を構築してはならないということだ。」⁶

全ロシア世論調査センターが今年10月に実施した世論調査⁷によると、回答者（1600人）の45%がロシア革命を肯定的に評価し、43%が否定的な評価を与えていることがわかった。また革命の主な原因は「国民の困難な状況」だったと考える人は45%、「政府の弱さ」が原因だったと答えた人は20%である。なお、ロシア人の92%が、「国で革命が起こるのを許してはならない」と確信していることがわかった。なぜなら革命は流血と結びついているからだ。このように、最近では、革命の結果に肯定的な評価をする人と否定的な評価をする人の数は基本的に同じである。

さらに、ロマノフ家の処刑は特筆すべきことである。1918年7月17日は、最後のロシア皇帝・ニコライ2世一家が処刑された日になった。ソ連時代、政治宣伝はニコライ2世のイメージを歪めて伝えた。ソ連時代、ニコライ2世は、「血の独裁者」と呼ばれ、1905年の

⁴ Grinina L.E. (2010). O prichinah russkoy revolutsii [ロシア革命の原因について] / Moscow: LKI. p.432

⁵ Lenin V.I. (1913). Tri istochnika i tri sostavnyh chasti marksizma [マルクス主義の三つの源泉と三つの構成部分] / PSS - T. 23. p.67.

⁶ Petrov Y.A. (2017). Rossiyskaya revolutsiya 1917 goda: vlast', obshestvo, kul'tura [1917年のロシア革命：権力、社会、文化] / Vestnik RFFI. Gumanitarnye i obshchestvennye nauki, №2 (87), p. 15

⁷ 「十月革命：1917-2017」調査、<https://wciom.ru/index.php?id=236&uid=116446>

血の日曜日事件⁸など、一連の革命を弾圧したとして非難された。しかしながら、ソ連崩壊後、ニコライ 2 世に対するとらえ方が大きく変わった。2000 年、ロシア正教会は、ソ連時代に殺された信者約 860 人を聖人に認定することを決めた。ニコライ 2 世とその家族も、聖人に加えることに決めた。この決定により、ニコライ 2 世は宗教的崇拜の対象として正式に権威付けされたことになる。また、彼らが処刑された場所には教会が建てられた。

ちなみに、2017 年にはモスクワとサンクトペテルブルクで十月革命を記念してのさまざま展示が開幕した。本研究でこれらのなかの一つに注目したいと思う。6 月 1 日にモスクワ歴史博物館では、革命から 100 年を記念して、「子どもたちが描いたロシア大革命」という展覧会が開幕した。1919 年に教師だったワシリー・ヴォロノフは、自分のコレクション（150 作品）をモスクワ歴史博物館に寄贈した。このコレクションに、モスクワのロモノソフ名称ギムナジウム⁹とアレクサンドロフ実科中学校に通う 8 歳から 14 歳の男子生徒だけの作品が含まれている（当時は男子と女子は別々に学んでいた）。

展覧会のキュレーターのエヴゲニー・ルキヤノフによると「展示しているのは専門家が選んだサンプルのようなもので、歴史的観点から見てきわめて正確かつ興味深いものです。」¹⁰。その上、第一革命は君主制からの解放と考えられたが、10 月革命とボリシェヴィキによる事実上の占領は恐ろしいものだったということを理解できる。「演劇広場での戦闘」、「包囲された住宅」、「クレムリン砲撃」などは 1917 年にモスクワで起こったロシア革命を実際に目にした子どもたちが描いた絵のタイトルである。このことから、十月革命は国で大勢の犠牲者を出した破壊的な出来事であり流血の事件であったと知覚できるかもしれない。



図版 1 「劇場広場での戦闘 モスクワ」 1917 年 10～11 月（作者不詳）



図版 2 「1917 年 10 月 28 日から 11 月 5 日にかけてのモスクワ前線」、モスクワ、1917 年 11 月（作者不詳）

十月革命を記念し、モスクワでは様々なイベントが行われた。6 月 7 日午後、ロシア連邦共産党やロシア共産主義青年団、そして各国から来た 130 人の左派の団体がパレードを行った。パレードはモスクワの赤の広場の北側まで 30 分歩き、マルクスの像のある革命広場にたどりついた。またこの日、赤の広場で軍事パレードも行われた。士官学校や警察学校などから約 5000 人が集まり、ソ連の軍服を着て旧型の銃を持って広場を行進していった。

⁸ ロシアの首都ペテルブルグで起きたデモで労働者の虐殺事件。

⁹ ロモノソフ大学者をモスクワで創立した中等教育機関。

¹⁰ 「“Ya risuyu revolyutsiyu”. Detski risunok vremen Velikoi rossiiskoi revolyutsii iz sobraniya Istoricheskogo muzeya.」[「僕は革命を描いている！」歴史博物館のコレクションからロシア大革命時代の子供たちの絵]、<https://www.shm.ru/shows/10261/>

3-4 他の国における革命の記憶



図版3 『神々の土地』のポスター



図版4 記念映画祭のポスター

日本ではロシア革命の影響下でマルクス主義を研究するサークルが誕生し、1922年に日本共産党が創立された。革命の精神は若者を魅了し、1923年に日本共産青年同盟が設立された¹¹⁾。革命を逃れて日本に住みついた亡命者もあり、彼らは日本に大きな影響を与えた。特に有名な亡命者の中には、医師エヴゲーニー・アクショーフ、野球選手ヴィクトル・スタルーヒン（日本野球殿堂入りした初の外国人選手）などがある。

また、ロシア革命100周年が他の国々でも注目を浴びている。これに関連した様々なイベントが開かれている。例えば、宝塚歌劇団は『神々の土地』～ロマノフたちの黄昏～というミュージカルを上映している。このミュージカルはロマノフ王朝の終わりについて語る。

京都文化博物館で2017年11月23日に、革命のさまざまな側面を描いたソ連映画のロシア革命百周年記念映画祭が開催された。エイゼンシュテインの『十月』、ロンムの『十月のレーニン』、シュープの『ロマノフ王朝の崩壊』などという映画が上映された。

歴史的に見ると、レーニンが「芸術」の中で映画という芸術を重視し、映画がプロパガンダやアジテーションだけでなく、記憶の共有という重要な役割を果たしている。そのように、革命映画を見直すことは、「革命」という出来事やイメージを再考する可能を与えると考えている。『京都新聞』は、この映画祭を取り上げた記事を載せ、主催者である人文研の伊藤順二はロシア革命について再考を促したい

『十月』

(1927年ソ連/監督:セルゲイ・エイゼンシュテイン/モノクロ/サイレント/101分/35mm/アテネ・フランセ文化センター蔵)

レーニンを俳優が演じるかたちで、二月革命から十月革命、ソヴィエト政権樹立までを描いた初めての作品。1927年に催された革命十周年記念祭に向けて製作された。臨時政府首班のケレンスキー、革命に反旗を翻したコルニーロフ将軍なども登場するものの、本作が描き出す出来事の主人公とは、間違いなく「群衆」である。

¹¹⁾ 田口富久治 (2001) 『21世紀における資本主義と社会主義』、<http://www2s.biglobe.ne.jp/~mike/taguchi21.htm>

とする意見を述べた（「二〇世紀最大のできごとなのに、忘れ去られようとしている」¹²⁾。

ベトナムでは、ロシア 10 月革命 100 周年を記念し、29 日夜、ハノイで、ベトナムの声放送局 (VOV) は在ベトナムロシア大使館と連携して、「ロシア 10 月革命の歌が響き続ける」をテーマにした芸術交流会を共催した¹³⁾。

中国では、中国国家博物館とロシア国立歴史博物館が、共同で「十月革命 100 周年記念——ロシア国立歴史博物館所蔵十月革命文物展」を開催した¹⁴⁾。中国国家博物館は計 238 点の文化財が展示した。ロシア側の展示企画担当者が 11 月 8 日に中国国家博物館で講義を行った。

まとめ

十月革命は様々な論争のある出来事である。100 年後の現在、世界では（とくに資本主義の国）ロシア革命は暴力的な政治体制のひどい事変としてしばしばみなされる。ソ連の同盟国（中国、ベトナムなど）は、十月革命をブルジョアジーの執権《ディクタトゥーラ》に反対する全人民の闘争と記憶する。現代ロシアでは、十月革命とソビエト政府は、人間を抑圧した出来事という見方もあるし、革命は窮乏と消耗と不満を解消する事変だったという見方もある。とにかく、十月革命は世界に大きな影響を与えた。その証拠として、100 年後の今もロシア革命はまだ記憶されている。

今後の研究課題

今後の主な研究課題が二つある。

- 1) 革命の評価に関しては、この研究の中では現代ロシア史研究者の意見だけ紹介したが、十月革命の支持者の評価を詳しく述べていない。革命の代表的な映画（エイゼンシュテインの『十月』）を分析しながら、ロシアにおける十月革命の支持者の評価を具体的に解説する必要がある。
- 2) 本研究では、ロシア、日本、ベトナムと中国における革命周年を記念してイベントについて解説したが、ヨーロッパや欧米における十月革命のイメージも分析する必要がある。

¹²⁾ 「京都でロシア革命百周年記念映画祭」、『思想運動』2017 年 12 月 15 日号, <http://www.shiso-undo.jp/shucho/1013kihara.html>

¹³⁾ 「ロシア 10 月革命 100 周年を迎える文芸公演」、2017 年 10 月 30 日、<https://vietnam.vnnet.vn/japanese/ロシア10月革命100周年を迎える文芸公演/355804.html>

¹⁴⁾ 「十月革命 100 周年記念 ロシア国立歴史博物館が 238 点の文化財を中国で展示」、2017 年 11 月 08 日、http://jp.xinhuanet.com/2017-11/08/c_136736892.htm

参考文献

- Clarke, Simon (2002) *Was Lenin a Marxist? The Populist Roots of Marxism-Leninism*. In in W. Bonefeld and S. Tischler (eds). Aldershot: Ashgate, pp.44-75.
- Grinina L.E. (2010). *O prichinah russkoy revolyutsii* [ロシア革命の原因について] / Moscow: LKI. p.432
- Lenin V.I. (1913). *Tri istochnika i tri sostavnyh chasti marksizma* [マルクス主義の三つの源泉と三つの構成部分] / PSS – T. 23.
- Petrov Y.A. (2017). *Rossiyskaya revolyutsiya 1917 goda: vlast', obshestvo, kul'tura* [1917年のロシア革命: 権力、社会、文化] / Vestnik RFFI. Gumanitarnye i obshchestvennye nauki, №2 (87), pp. 14-24
- Trotsky L.D. (1917). *Dni ispytaniya*. [試練の時期]. 訳 志田昇, <https://www.marxists.org/nihon/trotsky/1910-3/siren.htm>, 2017年12月13日アクセス
- 「“Ya risuyu revolyutsiyu”. Detski risunok vremen Velikoi rossiiskoi revolyutsii iz sobraniya Istoricheskogo muzeya.」 [「僕は革命を描いている！」歴史博物館のコレクションからロシア大革命時代の子供たちの絵], <https://www.shm.ru/shows/10261/>
- 田口 富久治 (2001) 『21世紀における資本主義と社会主義』、<http://www2s.biglobe.ne.jp/~mike/taguchi21.htm>, 2017年12月14日アクセス
- 「十月革命：1917–2017」調査、<https://wciom.ru/index.php?id=236&uid=116446>, 2017年12月12日アクセス
- 「ロシア10月革命100周年を迎える文芸公演」、2017年10月30日、<https://vietnam.vnnet.vn/japanese/ロシア10月革命100周年を迎える文芸公演/355804.html>, 2017年12月13日アクセス
- 「十月革命100周年記念 ロシア国立歴史博物館が238点の文化財を中国で展示」、2017年11月08日、http://jp.xinhuanet.com/2017-11/08/c_136736892.htm, 2017年12月13日アクセス
- 「京都でロシア革命百周年記念映画祭」、『思想運動』2017年12月15日号、<http://www.shiso-undo.jp/shucho/1013kihara.html>, 2017年12月13日アクセス
- 「ロシア革命百周年記念映画祭が開催されます（京都）」、2017年11月8日、<http://www.kotensinyaku.jp/archives/2017/11/006715.html>, 2017年12月14日アクセス
- 「ミュージカル・プレイ『神々の土地』～ロマノフたちの黄昏～」、<http://kageki.hankyu.co.jp/revue/2017/kamigaminotochi/index.html>, 2017年12月14日アクセス
- 図版出典
- 図版1、図版2：「“Ya risuyu revolyutsiyu”. Detski risunok vremen Velikoi rossiiskoi revolyutsii iz sobraniya Istoricheskogo muzeya.」 [「僕は革命を描いている！」歴史博物館のコレクションからロシア大革命時代の子供たちの絵], <https://www.shm.ru/shows/10261/>, 2018年1月28日アクセス
- 図版3：「京都でロシア革命百周年記念映画祭」、『思想運動』2017年12月15日号、<http://www.shiso-undo.jp/shucho/1013kihara.html>, 2017年12月13日アクセス
- 図版4：「ロシア革命百周年記念映画祭が開催されます（京都）」、<http://www.kotensinyaku.jp/archives/2017/11/006715.html>, 2018年1月30日アクセス